

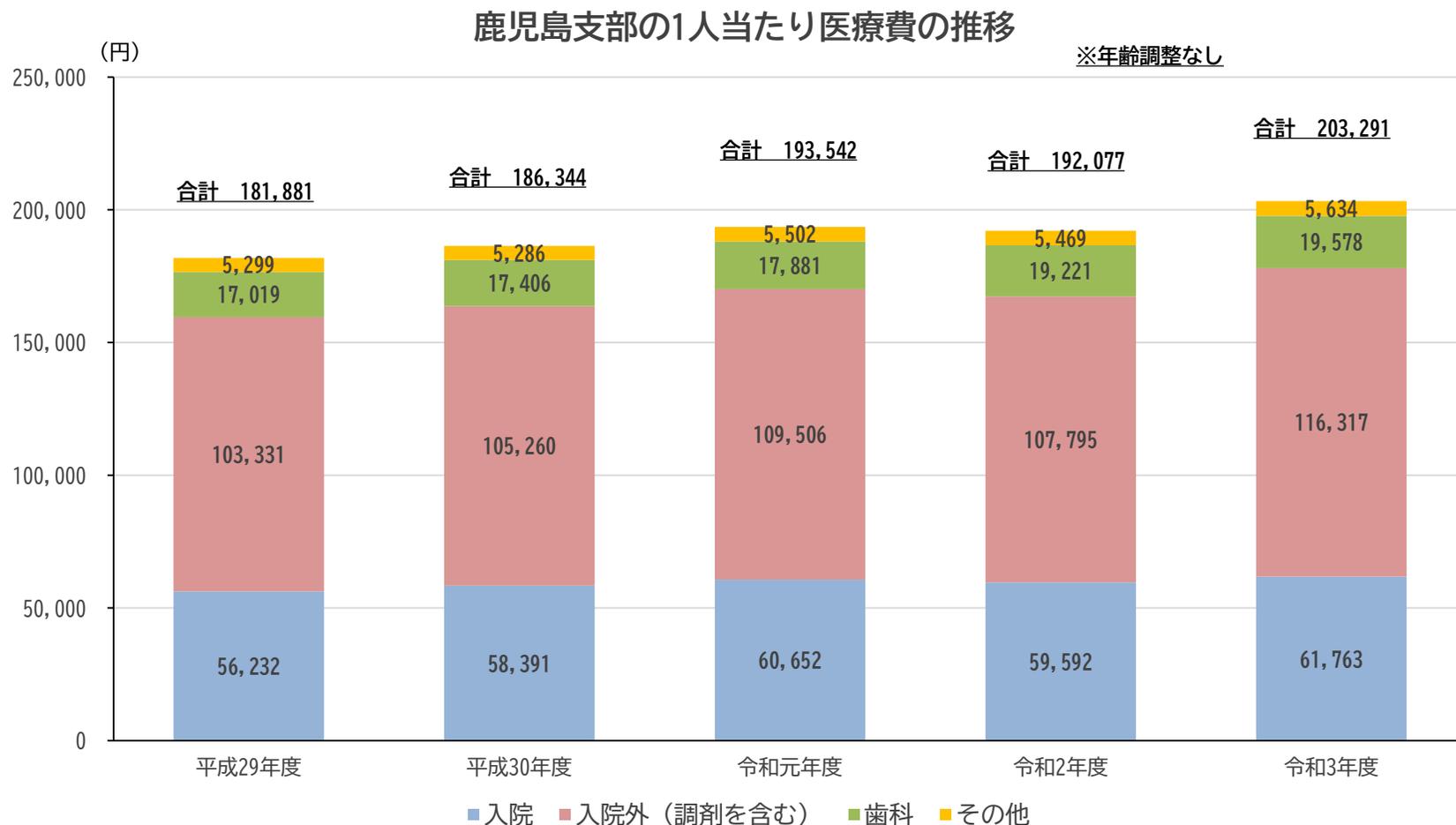
鹿児島支部の医療費等の状況 (令和3年度)

令和5年10月23日

全国健康保険協会 鹿児島支部

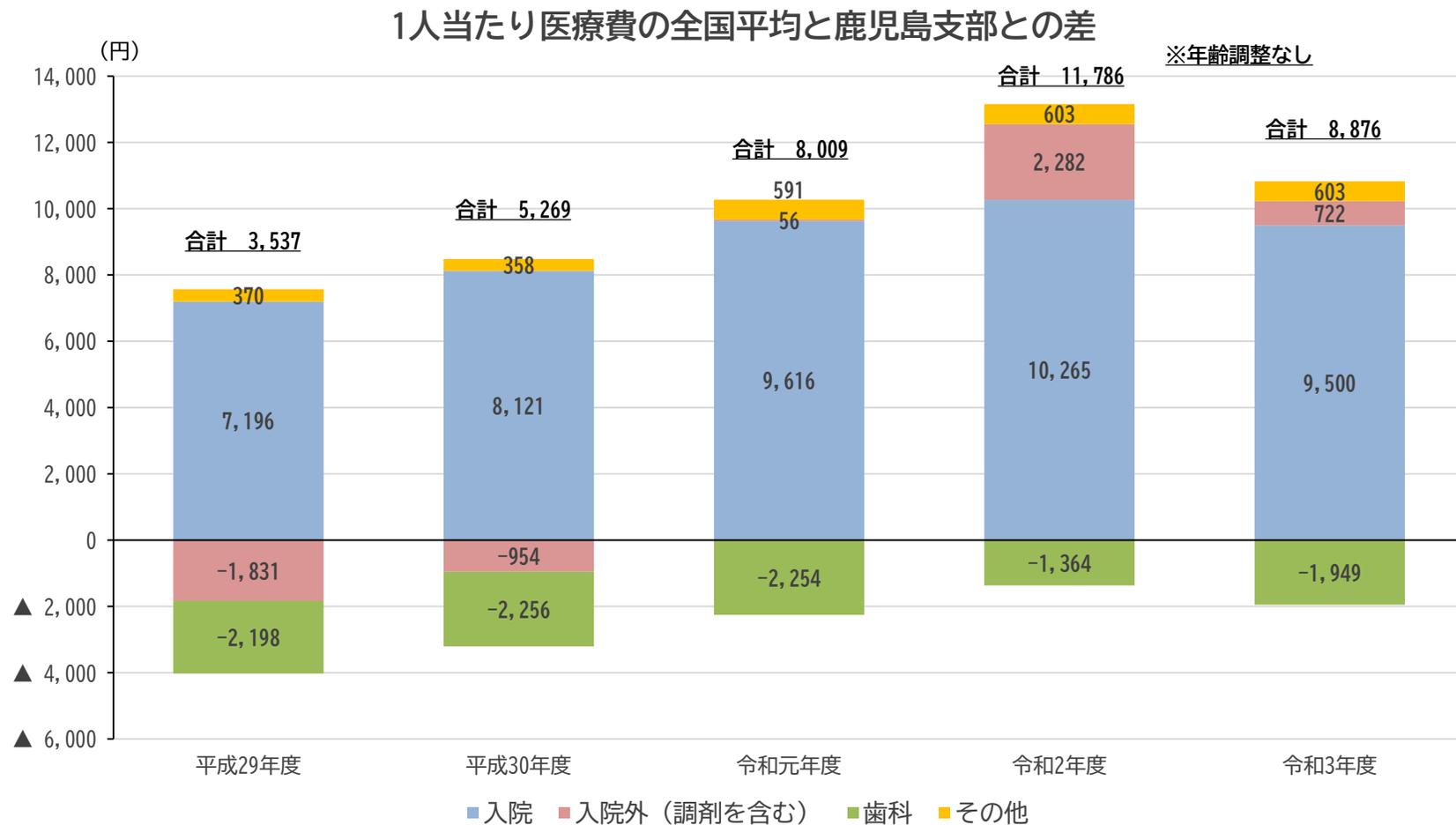
1. 鹿児島支部の1人当たり医療費の推移

- 鹿児島県の令和3年度1人当たり医療費は203,291円で、前年度より11,214円増加した。
- 内訳は、入院が61,763円（対前年度比+2,171円）、入院外（調剤を含む）が116,317円（対前年度比+8,522円）、歯科が19,578円（対前年度比+357円）、その他が5,634円（対前年度比+165円）となっている。



2. 1人当たり医療費の全国平均と鹿児島支部との差

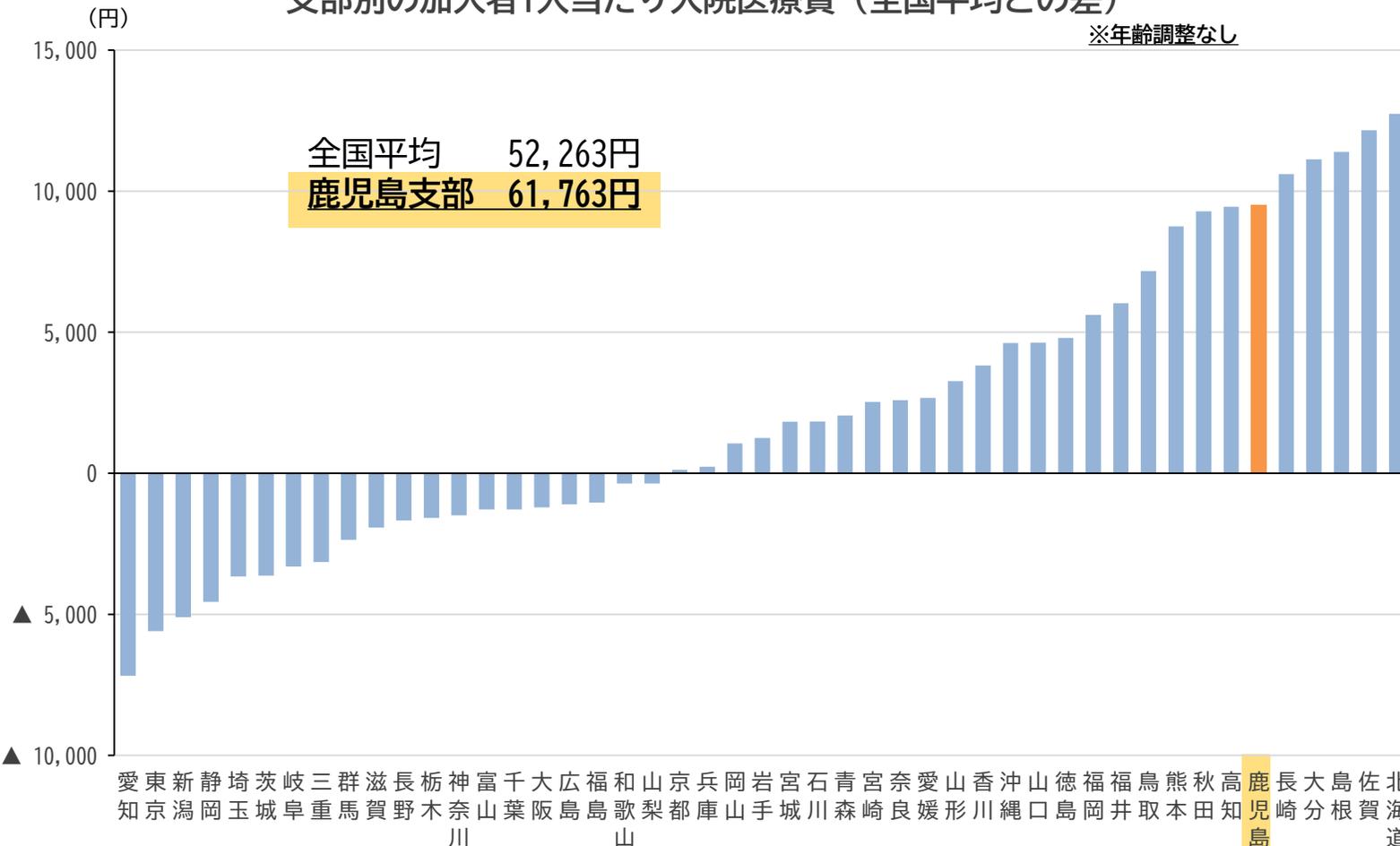
- 1人当たり医療費を全国平均と比較すると、その差は拡大傾向にあったが、令和3年度は縮小した。
- 入院医療費は全国平均より高い状況が続いており、入院外（調剤を含む）医療費は令和元年度に全国平均より高い状況に転じた。また、歯科医療費は全国平均より低い状況が続いている。
- 令和3年度における前年度との差は、入院が-1,560円、入院外（調剤を含む）が-765円、歯科が-585円、その他が±0円となっており、医療費全体では全国平均との差が2,910円縮小した。



4. 支部別の令和3年度1人当たり入院医療費と医療費の3要素(全国平均との差)

- 令和3年度の加入者1人当たり入院医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、鹿児島支部は61,763円で全国で6番目に高く、全国平均の52,263円よりも9,500円高い。【令和2年度：59,592円（全国5位）※全国平均49,326円】
- 鹿児島支部は入院受診率が高く、1件当たり入院日数が多い。入院受診率は1人当たり入院医療費と同様、九州地方が高い傾向がある。また、1件当たり入院日数と1日当たり入院医療費とは負の相関関係にある。

支部別の加入者1人当たり入院医療費（全国平均との差）



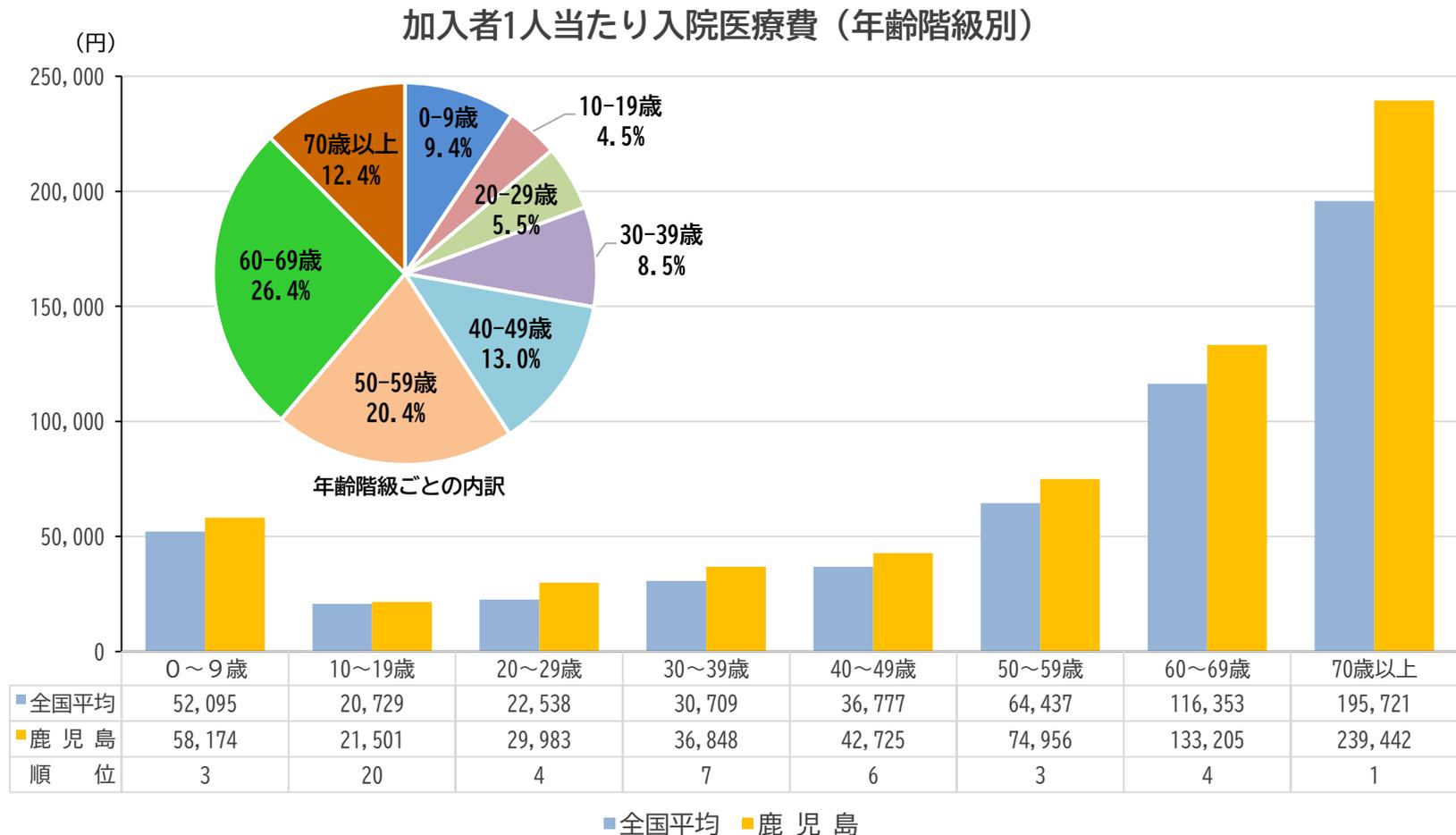
入院受診率（件／千人）が高い支部		
1	大分	129.7
2	佐賀	122.2
3	長崎	120.4
4	鹿児島	116.5
5	熊本	116.5
6	高知	112.6
7	北海道	112.5
8	島根	111.6
9	秋田	109.2
10	福井	107.6
47	東京	81.0
全国平均		92.9

1件当たり入院日数が多い支部		
1	秋田	10.60日
2	山口	10.52日
3	佐賀	10.50日
4	岩手	10.37日
5	熊本	10.35日
6	徳島	10.28日
7	高知	10.22日
8	長崎	10.17日
9	青森	10.16日
14	鹿児島	9.97日
47	愛知	8.61日
全国平均		9.36日

1日当たり入院医療費が高い支部		
1	京都	66,891円
2	東京	66,729円
3	神奈川	66,426円
4	大阪	65,674円
5	千葉	64,365円
6	滋賀	63,541円
7	愛知	63,414円
8	兵庫	63,315円
9	埼玉	62,657円
39	鹿児島	53,178円
47	佐賀	50,218円
全国平均		60,123円

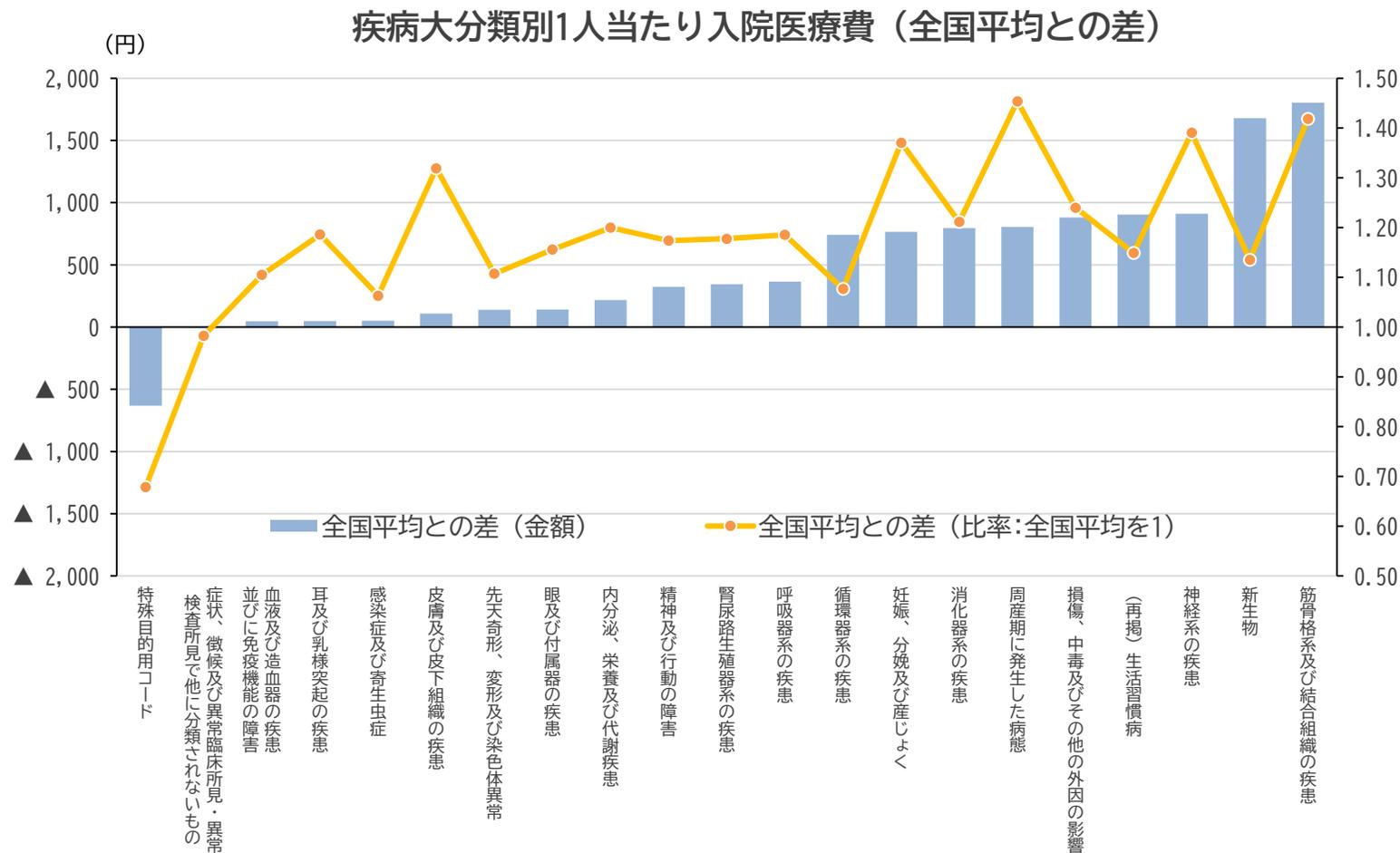
5. 鹿児島支部の令和3年度年齢階級別1人当たり入院医療費(全国平均との比較)

○ 鹿児島支部の1人当たり入院医療費を全国平均と比較すると、10～19歳の階級を除く全ての階級で全国でも上位に位置する。特に70歳以上の階級は全国で一番高い。



6. 鹿児島支部の令和3年度疾病大分類別1人当たり入院医療費(全国平均との差)

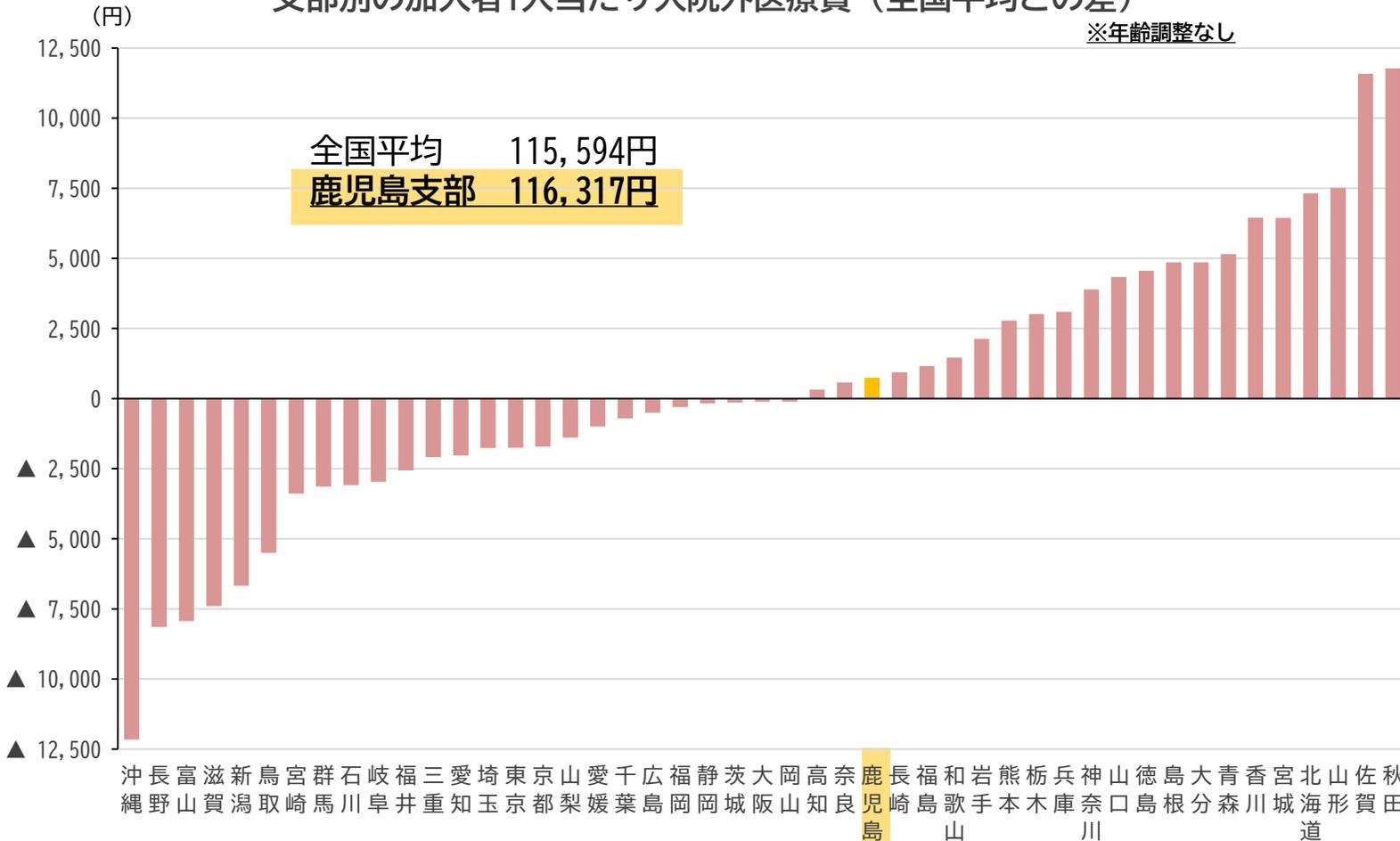
- 鹿児島支部の疾病大分類別1人当たり入院医療費を全国平均と比較すると、ほとんどの疾病大分類において全国平均を上回っている。
- 「筋骨格系及び結合組織の疾患」「神経系の疾患」「周産期に発生した病態」「妊娠、分娩及び産じょく」が全国平均との差の比率の乖離が大きい。特に「筋骨格系及び結合組織の疾患」は金額も乖離が大きい。



7. 支部別の令和3年度1人当たり入院外医療費と医療費の3要素(全国平均との差)

- 令和3年度の加入者1人当たり入院外（調剤を含む）医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、鹿児島支部は116,317円で全国で20番目に高く、全国平均の115,594円よりも723円高い。【令和2年度：107,795円（全国19位）※全国平均105,513円】
- 1件当たり入院日数と1日当たり入院医療費とは負の相関関係にあるが、鹿児島支部の1件当たり入院外日数はほぼ平均並みにもかかわらず、1日当たり入院外医療費は全国平均と比較して安い。

支部別の加入者1人当たり入院外医療費（全国平均との差）



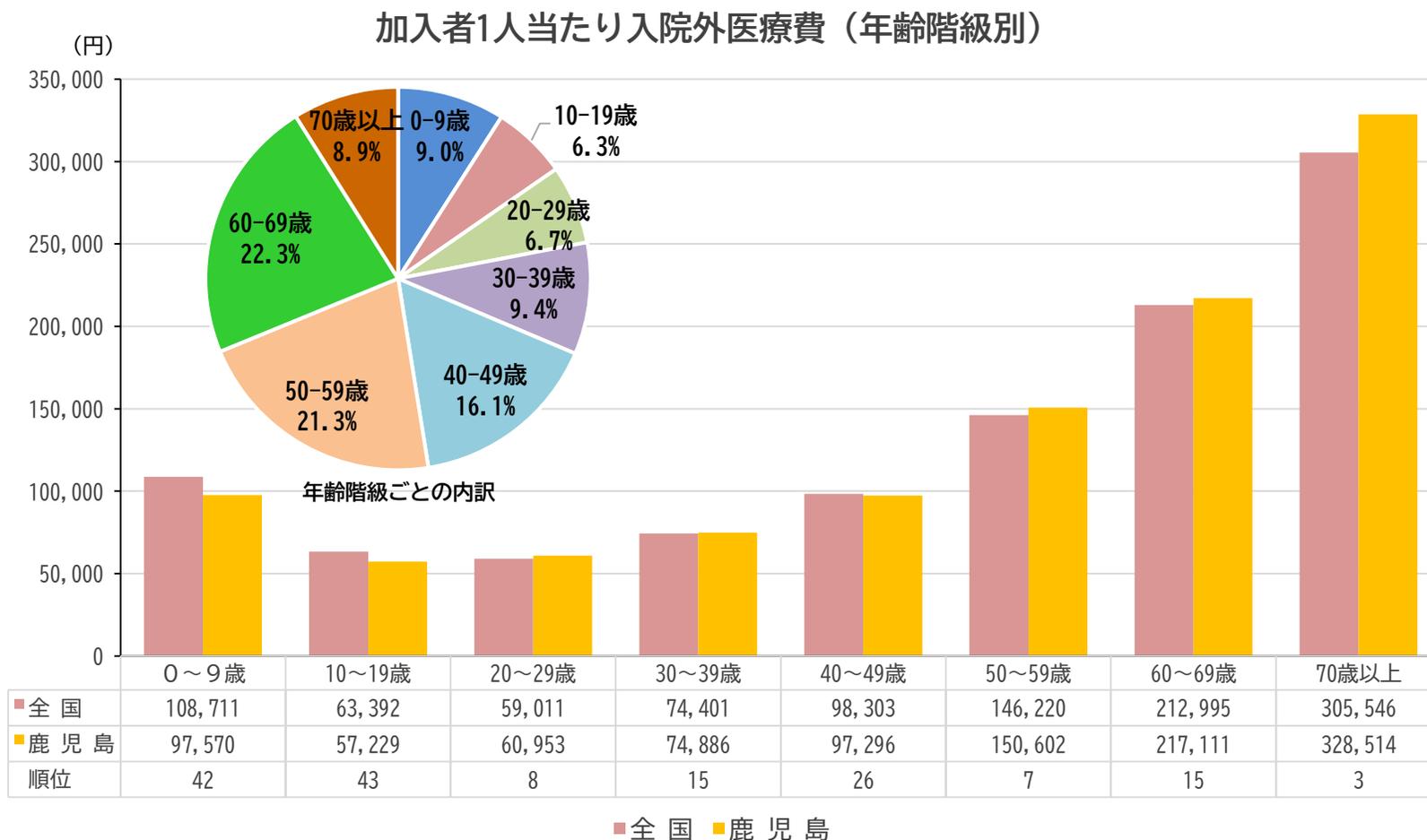
入院外受診率（件／千人）が高い支部		
1	山形	6801.1
2	佐賀	6710.9
3	秋田	6629.2
4	和歌山	6576.7
5	山口	6557.8
6	熊本	6535.6
7	徳島	6519.0
8	島根	6503.3
9	香川	6432.0
14	鹿児島	6291.3
47	沖縄	5195.0
全国平均		6052.9

1件当たり入院外日数が多い支部		
1	佐賀	1.47日
2	福岡	1.45日
3	香川	1.42日
4	広島	1.42日
5	大阪	1.42日
6	愛知	1.42日
7	岐阜	1.41日
8	愛媛	1.41日
9	兵庫	1.41日
11	鹿児島	1.40日
47	新潟	1.31日
全国平均		1.39日

1日当たり入院外医療費が高い支部		
1	北海道	16,110円
2	沖縄	14,782円
3	千葉	14,722円
4	茨城	14,682円
5	秋田	14,618円
6	宮城	14,542円
7	岩手	14,434円
8	福島	14,248円
9	神奈川	14,217円
38	鹿児島	13,170円
47	和歌山	12,754円
全国平均		13,773円

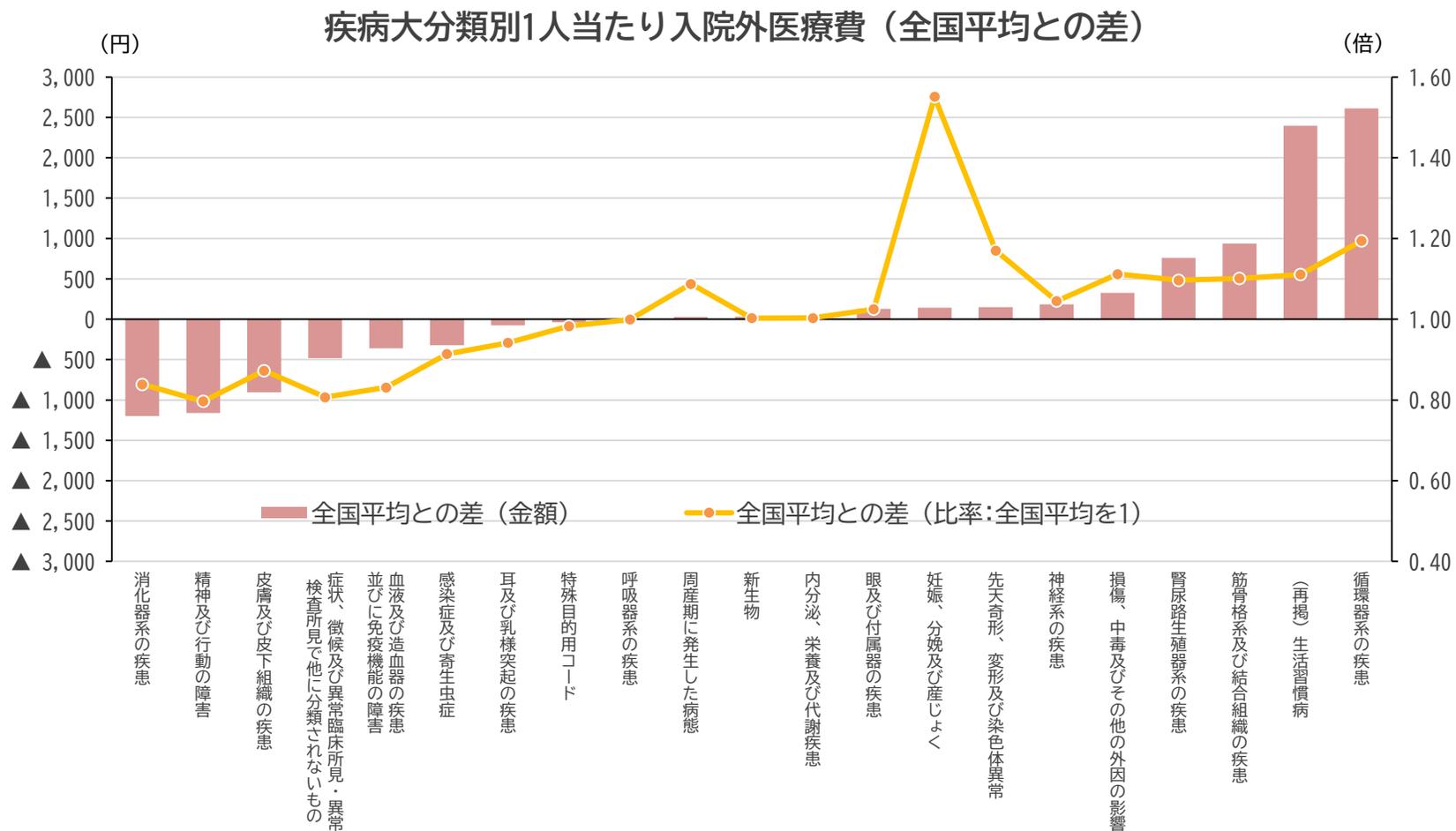
8. 鹿児島支部の令和3年度年齢階級別1人当たり入院外医療費(全国平均との比較)

○ 鹿児島支部の1人当たり入院外(調剤を含む)医療費を全国平均と比較すると、19歳までの若年層の階級では全国でも安い傾向にあり、20～69歳の階級でも全国平均より若干高い程度。しかし、70歳以上の階級は全国で3番目に高い。



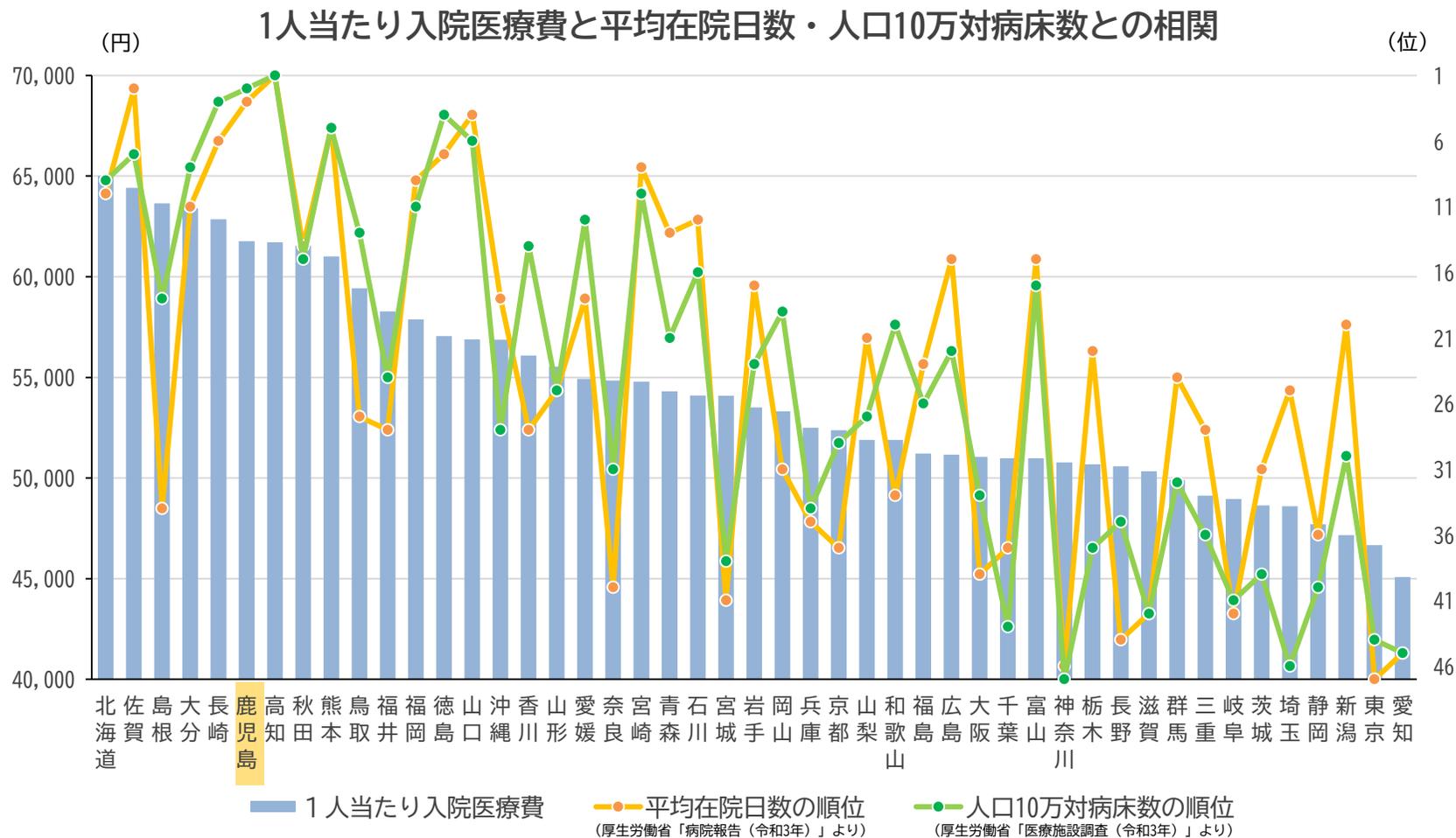
9. 鹿児島支部の令和3年度疾病大分類別1人当たり入院外医療費(全国平均との差)

- 鹿児島支部の疾病大分類別1人当たり入院外（調剤を含む）医療費を全国平均と比較すると、「妊娠、分娩及び産じょく」「循環器系の疾患」が全国平均との差の比率の乖離が大きい。また、「循環器系の疾患」「生活習慣病」は金額の乖離が大きい。



10. 1人当たり入院医療費と平均在院日数・人口10万対病床数との相関

- 鹿児島県の平均在院日数は全国で3番目に長く、全国平均27.5日に対し39.1日となっている。
- 鹿児島県の人口10万対病床数は全国で2番目に多く、全国平均1,195.2床に対し2,032.6床であり、約1.7倍となっている。
- 1人当たり入院医療費と、平均在院日数及び人口10万対病床数との間には、おおよそ正の相関関係があり、鹿児島支部の1人当たり入院医療費が高い1つの要因と考えられる。



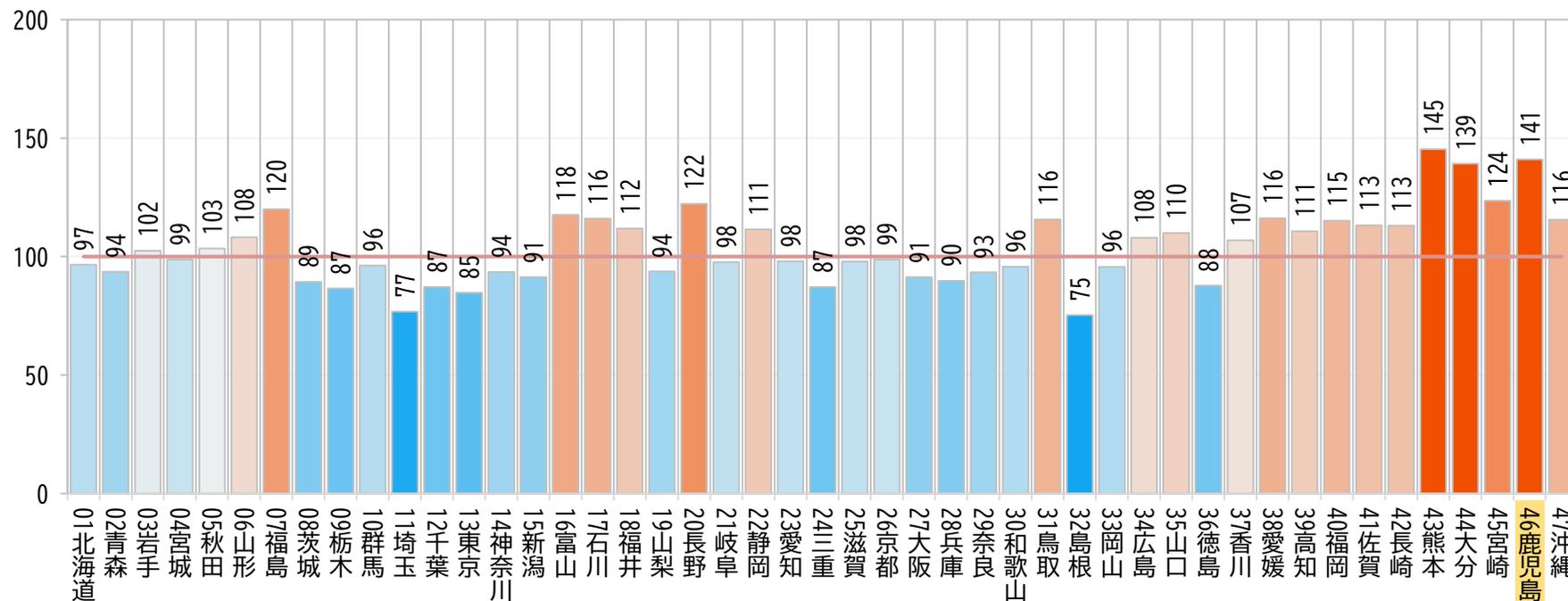
11. 診療時間外受診(初診)の地域差

第99回運営委員会(2019.9.10)資料4より抜粋

- 鹿児島支部については、外来初診の診療時間外受診(時間外加算、時間外特例加算、深夜加算、休日加算の合算)のSCR(※)が特に高い。
- (※) SCR：標準化レセプト出現比(Standardized Claim Ratio)
ある診療行為のレセプトが、全国の性年齢階級別の出現率と同じ割合でその地域に出現するとして期待数を計算し、実際のレセプト件数との比をレセプトの出現比として指数化したもの。全国平均100に対してその地域が100より大きい場合、選択した診療行為が相対的に多くなされていることを表し、100より小さい場合少なくなされていることを表す。
- 外来初診の診療時間外受診のSCRは、四国と九州地方で高い傾向が見られた。

都道府県別外来初診の時間外・時間外特例・深夜・休日加算のレセプト算定状況(SCR)

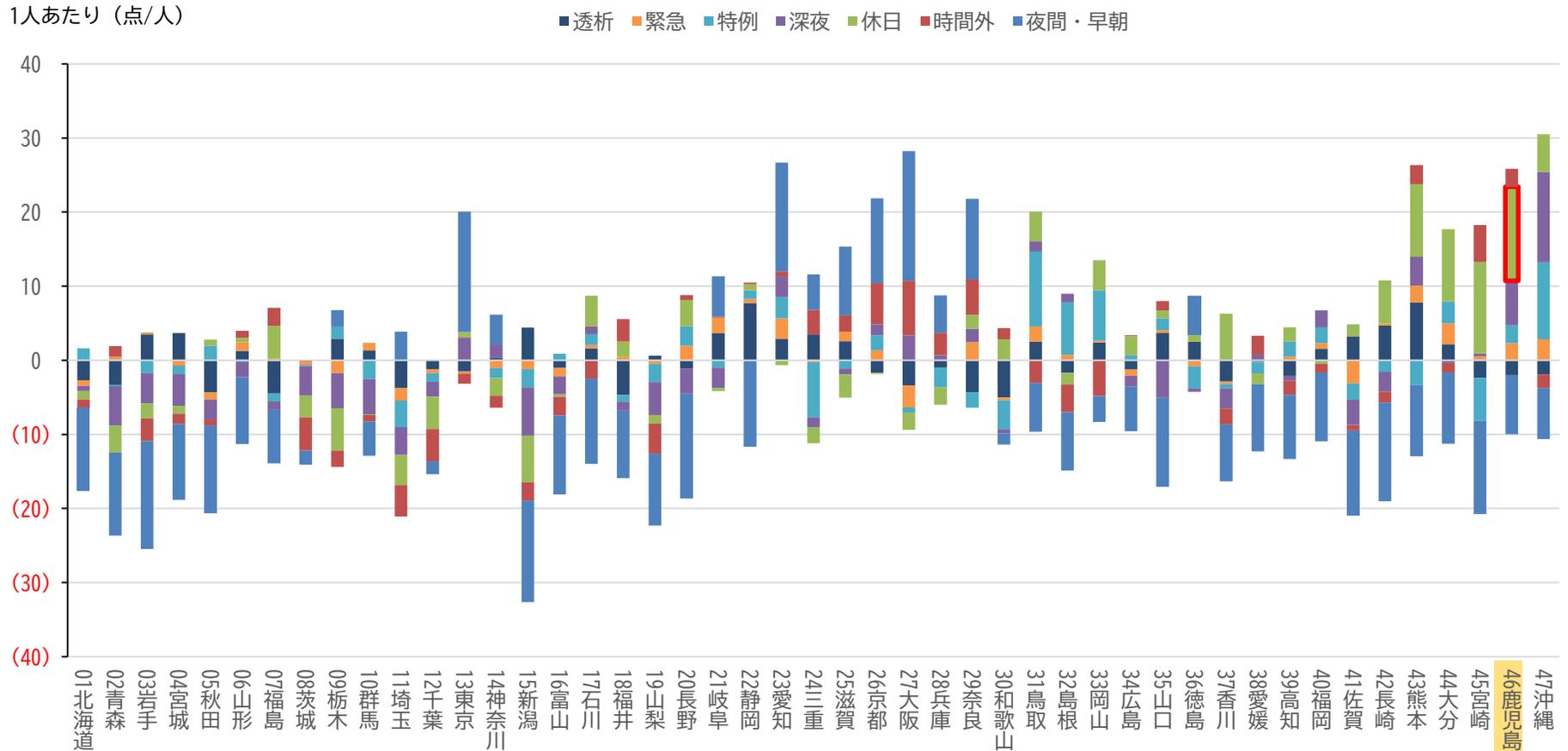
算定件数 4,269,452件
2016年度医科外来レセプトを使用



12. レセプトの年間加算点数でみる時間外診療の地域差

○ 時間外診療の地域差をレセプトの加算点数において受診時間帯別にみると、鹿児島支部は「休日」について全国で最も高く、「総計」について全国で6番目に高い。

時間外診療による一人あたり年間加算点数の全国平均からの乖離

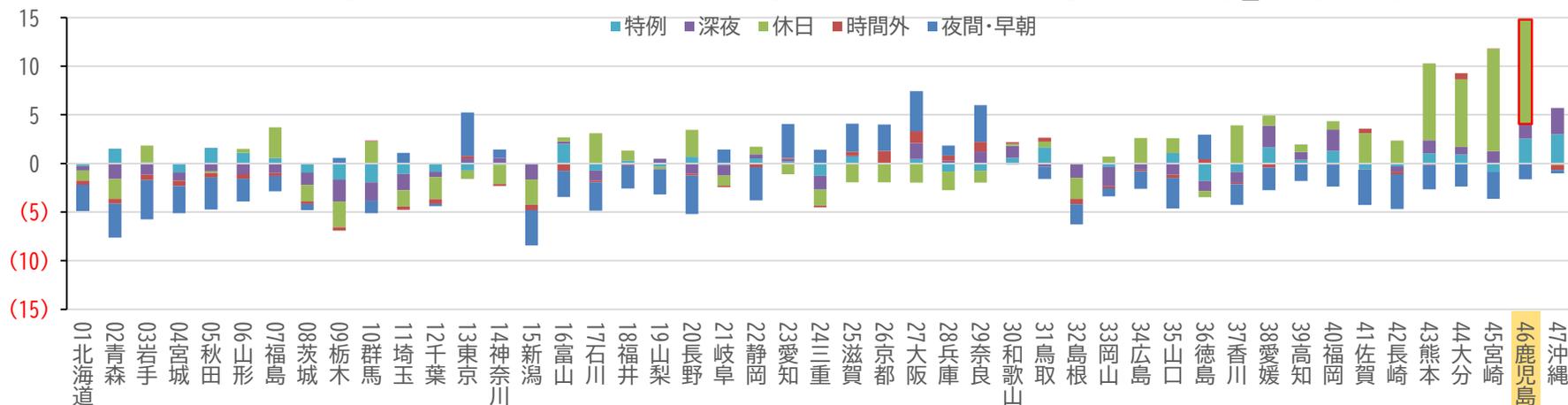


12. レセプトの年間加算点数でみる時間外診療の地域差

- レセプトの加算点数「初診料」系について、鹿児島支部は「休日」及び「総計」について全国で最も高い。
- レセプトの加算点数「再診料」系について、鹿児島支部と全国平均との乖離は小さい。

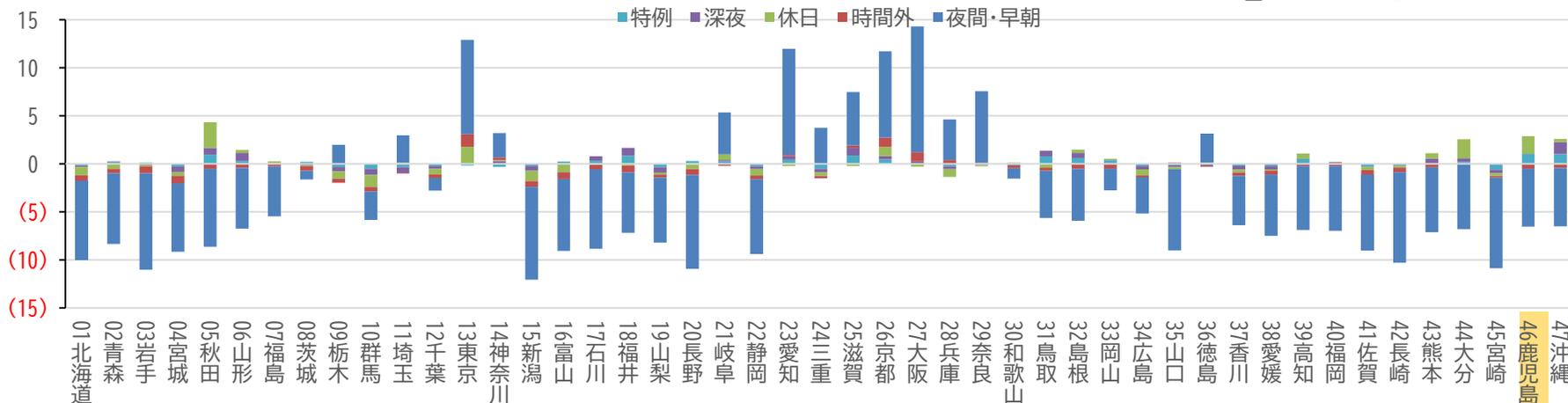
1人あたり (点/人)

時間外受診に係る一人あたり年間加算点数の全国平均からの乖離_「初診料」系



1人あたり (点/人)

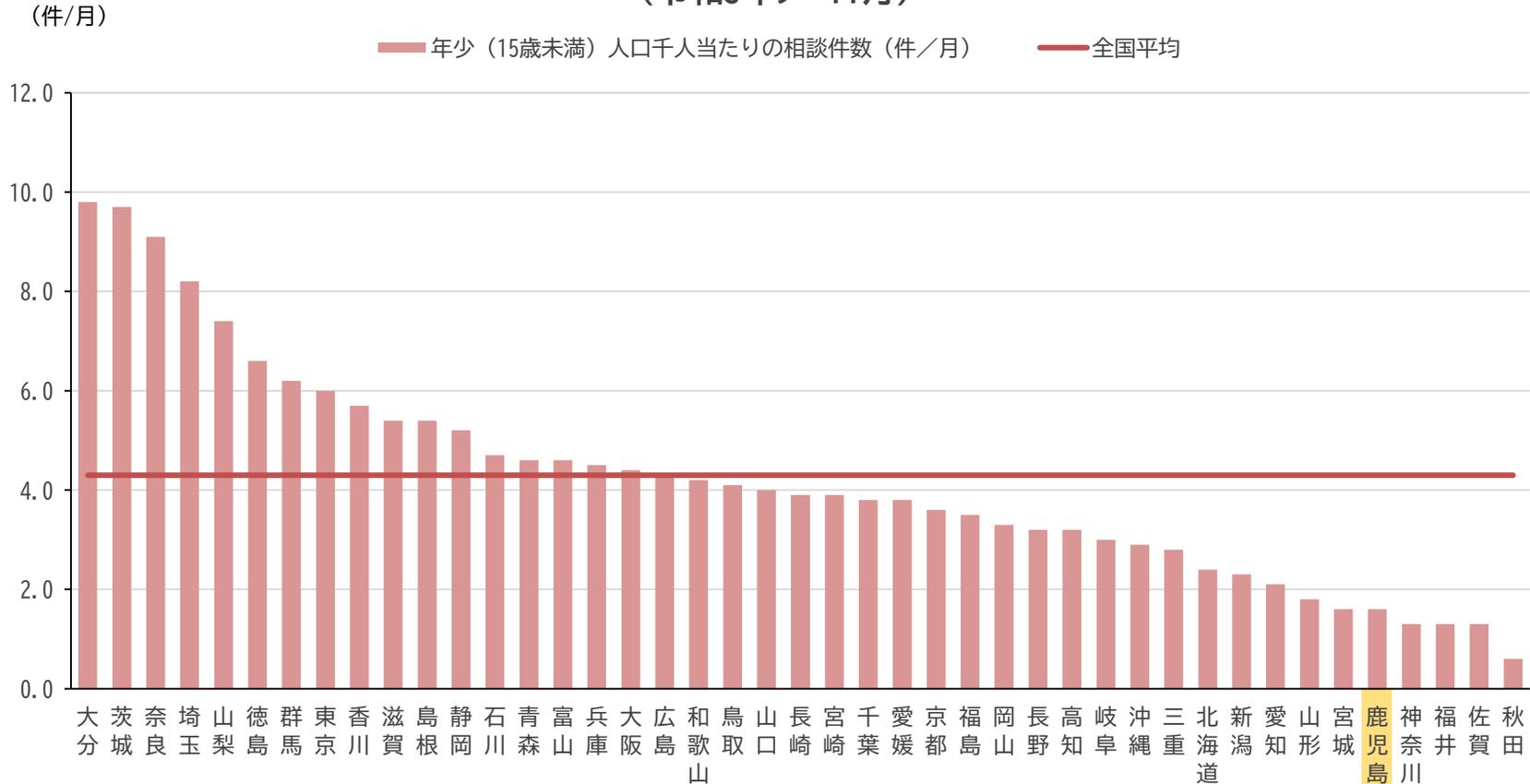
時間外診療に係る一人あたり年間加算点数の全国平均からの乖離_「再診料」系



13. #8000の都道府県別年少(15歳未満)人口千人当たりの相談件数

○ 鹿児島県における「#8000の相談件数」は全国でも少なく、秋田、佐賀、福井、神奈川に続き5番目に少ない件数となっている。

#8000の都道府県別年少(15歳未満)人口千人当たりの相談件数 (令和3年9~11月)



出典：厚生労働省委託事業「令和3年度#8000情報収集分析事業報告書」
(本調査には、岩手県、栃木県、福岡県、熊本県を除く43都道府県が参加)